

Oita Yufumi

VOL.18

Hospital

発行／令和3年4月

大分ゆふみ 病院たより

 大分ゆふみ病院



院長があいさつ

『大分ゆふみ病院の20年 そしてこれからのホスピスケア』

院長 一万田 正彦
いちまた まさひこ



ケアを行っていく中で、患者さんやご家族が笑顔を見せてくれた時は、私たちにとっても大きな喜びとなります。不安定な世の中で、先行きの不安があっても、それぞれの人が思いやる気持ちを持って、困難な状況を乗り越えられる社会になることを願っています。時代が変わり、医療も進歩し、世の中の状況が変化していく中で、専門的緩和ケアの提供施設である大分ゆふみ病院は、患者さんとその家族の支えとなるべく日々精進を重ねてあります。それはこの先十年、二十年とずっと続していく事になります。私たちスタッフは、患者さんや家族にとって「ここに来て良かった」と言っていただけるような病院をこれからも目指していきます。

平成13年11月1日に、大分県内で初めての緩和ケア病院として開院した「大分ゆふみ病院」は、令和3年11月1日に、開院二十周年を迎えます。当院が開院するまでは九州各県の中で大分県だけが、唯一ホスピス緩和ケア病棟が存在しなかつたために、開院前から大分県民の方々の期待は大きいものでした。開院に先立ち、四日間一般市民向けに見学会を開催したところ、二千七百人の方が訪れ、地元の方の関心の高さをひしひしと感じました。

開院当初は、スタッフが患者さんへの対応に慣れない中、少しでも苦痛を和らげ、穏やかに家族との時間を過ごせるように尽力しました。そのうちに気が付いたことは、スタッフが患者さんや家族のために頑張っているようでありながら、実は病気を抱えながらも、精一杯に日々を過ごしている患者さんや家族から、私たちスタッフが力をもらっていることでした。患者さんや家族とのかかわりが、スタッフを成長させ、また新たにかかわる方々に得られた経験を還元するサイクルが出来るようになりました。

それでもホスピスに対する誤解や偏見は多く見られていたために、開院十周年を機に、市民向けの公開講座である「ゆふみホスピスセミナー」を年に数回開催する事にしました。それによりホスピスでの活動を知ってもらう機会を提供できるようになりました。

当院の特徴としてボランティアスタッフの存在があります。事前にボランティア講座を受講した上で、開院当初より長きにわたって曜日ごとに日替わりで活動をしています。ティータイムでは患者さんや家族にコーヒーなどの提供をしたり、庭の草木の手入れやハンドマッサージなど多岐にわたって、ホスピスに社会の風を吹き込んでくれます。（令和3年6月現在は感染予防のために活動休止中）

更に時代の流れで、これまで治療困難な癌患者は病院で過ごすものと思われていましたが、在宅医療の進歩により、自宅で過ごすという選択肢が増えるようになりました。世の中の状況は変わってきました。

二十年前に比べると、医療用麻薬をはじめ、患者さんの苦痛を和らげるための薬剤は目まぐるしく進化しています。またケアの質も向上してきています。ただし変わらないものがあります。それは患者さんと家族のお互いが思いやる心であり、その方が苦悩を抱えながらも生き抜こうとされる力です。私たちスタッフは、その苦難を和らげるために、できる限りの支援をしています。本当に人の気持ちの部分は不变なものと感じています。また当院の縁に囲まれた静かな環境も以前と変わりなく維持しています。私たちは、苦痛症状をできる限り和らげ、こころの重荷を少しでも軽くできるように関わり、ささやかながらもこれまで諦めていた日常を取り戻せるように支援しています。困難な時であるからこそ、周りの人の支えが必要になります。ホスピスでの

ご家族より

ご家族からのお手紙をいただきました

衛藤 公徳《患者様のご家族》



二人の思い出

ゆふみ病院に入院（転院）出来たのは五月十一日だった。広い部屋で、気持ち良く過ごせそうで安心した。

家庭の方も田んぼも少し有り、忙しく行ったり来たりの日が続く。考えてみるとミツ子との結婚生活は五十年を過ぎている。その間、俺はどれだけのことをやってやったろうと思う。ミツ子に言う。俺はお前に今まで何もしてやれなかっただ気がする…するとミツ子はそんなことはない、ずっとやさしく、楽しい生活だったよ、と言う。考えて見るとゆふみ病院に来てから随分おだやかな生活が出来たと思う。

六月に入ると食事も進まなくなり、痴呆も進み、それでも我が家に帰りたいと言う。何度も言ふ。遠いので体力的に無理だ、かわいそうだが無理だ。（六月十三日）食事もほとんど取れなくなり、のどの乾きを潤す程度だ。ゆふみ病院のスタッフの皆さんにやさしく見て戴いたことを心から感謝している。

今でもあの入院生活を思うと皆さんに逢いたいと思う。ミツ子の死から半年が過ぎ少しづつではあるが心がいやされている。担当看護師さんからの便りは本当にうれしく心に響き、すごく癒されました。有りがとうございました。これからも私と同じように苦しむ方がいらっしゃると思いますが、ゆふみ病院のスタッフの皆さんからの看護で、随分多くの方々の癒しになると 思います。これからもどうか元気で活躍することを願っています。

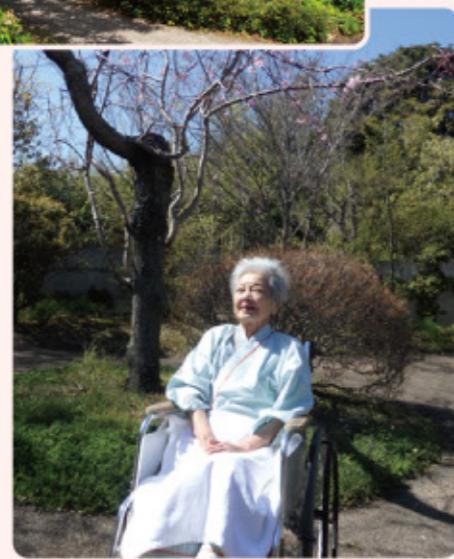
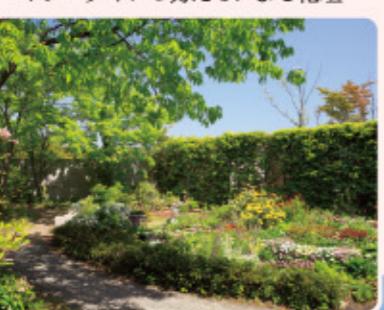
四季折々

当院では、各月ごとにさまざまな季節の行事を行い、患者さんやご家族とともに季節を感じながら楽しい時間を過ごしています。

Oita Yufumi Hospital

春

のんびり過ごす穏やかな時間
春の陽射しを浴びながら
庭の木々や花を眺めて



桜と一緒にきれいに撮ってくださいね

ボランティアの方たちによる花壇



青空の下で花見をしながら乾杯!!

Spring

秋

深まる秋を楽しみます
竹灯りに誘われて歩く散歩道、
幻想的な空間が広がり

暖かな竹灯りの灯に囲まれ、幻想的な時間が流れました。



Happy Birthday♪ 皆でお祝いしました。

Autumn

夏

心地良い時間が流れます
敷地内の溢れる緑が育つ夏、
鳥のさえずりや木陰の散歩道など



「短冊に書いた願い事は叶いましたか」



父の日、大好きなお父さんへ
感謝の気持ちを込めて



しやほん玉きらきら。
親子のとても良い時間でした。

冬

心あたたまる場所です
ご家族を優しく包む
ラウンジの暖炉、患者さんや



有意義な時間を過ごさせていただくことが出来ました

Winter

Summer

ボランティアの方々への想い

新型コロナウイルス感染症の流行により、ホスピスボランティアの活動は休止が続いています。大分ゆふみ病院の癒しの源となっていたラウンジでは、珈琲など喫茶の提供や患者さんとボランティアの談笑、ピアノやギター、リコーダーの音色など、毎日の活動を通してどれもが心を和ませてくれていました。しかし、コロナ禍でラウンジは静まり返っています。ボランティアの活動は患者や家族、病院スタッフに癒しと心のゆとりを与えていました。ホスピスにおけるボランティアスタッフの存在の大きさや、「院内に社会の風を吹き込む」ことの大切さをあらためて感じました。新型コロナウイルス感染症の流行は、なかなか終わりが見えない状況ですが、「明けない夜はない」、必ず感染症の流行が終息する日は来ます。ラウンジに笑顔がもどるその時まで、ゆふみのホスピスボランティアの皆さんが築いてくれた「ボランティアの灯」を、私たち病院スタッフが守り続けて行きます。



『看護師ブログ』始めました！

ホームページでは、新しく『看護師ブログ』を始めました。ぜひ、ご覧ください！

大分ゆふみ病院

検索



■研修・施設見学受入れ状況（2020.4.1～2021.3.31）

研修

卒後臨床研修医 12名（大分大学医学部附属病院、大分県立病院）

看護学生 研修 87名（大分大学医学部 看護学科）

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、実習の一部受入を制限しています。

施設見学

看護師 2名

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、患者さん、ご家族以外の施設見学を原則中止にしています。

※入院患者さん、ご家族には、ご迷惑をお掛けしないよう細心の注意を払っていますのでご協力を
お願い致します。

■ホスピス診療記録（2020.4.1～2021.3.31）

■入院患者数

182名（男性 94名、女性 88名）

■平均年齢

74歳（男性 75歳、女性 73歳）

■住所分布

大分市 128名、大分市外 54名

（大分市外：由布市 10名、豊後大野市 7名、別府市 7名ほか 県内市町 21名、県外 9名）

■紹介元病院

大分大学医学部 附属病院、大分県立病院、大分赤十字病院、大分医療センター、別府医療センター、大分岡病院、うえお乳腺外科、大分共立病院、井野辺病院、大分循環器病院、やまおか在宅クリニック、宇佐高田医師会病院、野口病院、児玉病院、有田胃腸病院、豊後大野市民病院、天心堂へつぎ病院、臼杵市医師会立 コスマス病院、新別府病院、明野中央病院 ほか

入院までの流れ

①入院相談

電話で入院の相談を行った後、まず患者さんの容態など現状を伺います。また、入院相談外来や見学を希望の方は、来院日時のお約束をします。

②入院相談外来（医師による診察面談）

入院希望の方は、患者さんご本人またはご家族に対し、医師による診察と面談が行われます。また施設の見学もできます。
※紹介状とX線フィルムなどを持参していただきます。

③入院判定会議

医師、看護師長、医療ソーシャルワーカー（相談員）によって行われます。

④会議の入院決定の連絡

患者さんまたはご家族に入院の適否、日程について連絡をします。

⑤入院

相談員、または医師が患者さん、ご家族、紹介元病院と連絡を取り、入院の調整を行ないます。

病院理念

**大分ゆふみ病院は
『今を生きる』患者と家族を支えます。**

1. 患者と家族の権利と尊厳を守る診療・看護を実践します。
2. 心身の不快な症状の緩和につとめ、最善のケアの提供を目指します。
3. 家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
4. さまざまな職種とボランティアがチームを組み、ケアにあたります。
5. 大分県の緩和ケアの発展に寄与します。

ご案内

入院をお考えであったり見学をご希望される方は、必ず電話予約をお願いいたします。

※予約をされていないと相談が重なり、対応できない場合やお待ちいただく場合がございます。

■入院の対象となる方

- 医師が治癒が期待できないと判断した悪性腫瘍の患者を対象とします。
- 患者と家族が入院を希望していることが原則です。
- 入院予約時に「病名・病状」について理解していることが原則です。
- 社会的、経済的、宗教的な理由によりお断りすることはありません。

■がん疼痛緩和外来【要予約】

がんによる痛みやしびれなどでお困りの方、また、痛みにより眠れない方など、どなたでも直接外来受診や電話相談に応じます。専門の緩和治療医が対応いたします。お気軽にご連絡ください。※要予約

■在宅を希望する方

ご自宅で生活を希望する方は、必要に応じて、訪問診療医、訪問看護、ヘルパーと連携いたします。

■講演依頼を承ります

緩和ケア・ホスピスについてわかりやすい内容で、講演活動を行っています。お気軽にご相談ください。

■ホスピスセミナーを開催しています

ホスピスケアをより多くの方に知っていただくために、ホスピスセミナーを春・秋の年2回、開催しています。詳細につきましては、ホームページをご覧ください。(http://oitayufumi.com)



まず、相談窓口へお電話ください。

☎ 097-548-7272

電話受付時間／月～金曜日 AM9:30～PM4:30(祝日は除く)

交通のご案内

- バスをご利用の場合
大分駅より大分交通<机張原>行き、上金谷追停留所下車。
- 車をご利用の場合
大分駅より車で15分、大分インターより車で5分